

30. 観阿弥創座の地

約 800 年前から演じ伝えられてきた芸能である能楽は、日本を代表する古典芸能としてユネスコの世界無形文化遺産に登録されています。

名張駅前には能面(翁面)を持った観阿弥の像が、また、市役所前広場には翁を舞う観阿弥の像が建っています。11 月には上小波田の観阿弥ふるさと公園で観阿弥祭が毎年催されています。名張は観阿弥が能を公演するグループである「観世の座」をつくった地であるといわれています。



市役所前の翁像



観阿弥祭(観阿弥ふるさと公園)

1. 能楽とは

能楽は、明治時代までは猿楽と呼ばれていた芸能です。奈良時代に中国より伝わった曲芸や物まねなどの民間の芸能(散楽)が起源とされています。これに、平安時代中ごろから宗教的な行事が起源の芸能(田楽や延年)と、物まねなどの笑いの芸能(猿楽)がお互いに影響しあい発展していきました。やがて、専門的な役者としての座と呼ばれる集団が生まれ、寺社の保護を受けるようになりました。

室町時代に、猿楽などの芸能に歌や美しい舞や物語性を加えて芸術性を高めた「能楽」を完成させたのが、観阿弥・世阿弥親子でした。

2. 観阿弥・世阿弥親子

観阿弥は、観世清次といい、伊賀の生まれとされています。その子の世阿弥が語ったとされる『申楽談儀』には、伊賀の国、小波田にて初めて座を建てたと書かれています。このことから名張は、観阿弥創座の地と呼ばれています。

この時代は、鎌倉幕府が崩壊し、貴族、武士、民衆を巻き込んで争いを繰り広げた動乱の

時代でした。大和にあった4つの猿楽の座は、寺社の資金を集めるための公演を行っていました。そのような中で、観阿弥が1374(応安7)年に、京都の今熊野で行った公演を、室町幕府3代将軍足利義満が初めて見物しました。義満は、観阿弥の翁舞に感動した結果、観世座を支援し、猿楽が室町幕府の芸能になりました。市役所前広場に立つ翁を舞う観阿弥像は、そのことを表しています。

また、世阿弥は天皇を中心とする公家社会ともつながり、上流階級の文化を取り入れることで、猿楽をさらに発展させていきました。



観阿弥像(近鉄名張駅前)

3. 名張での能楽

名張では古くから能楽が盛んに演じられていて、宇流富志禰神社には名張藤堂家から寄進された三重県の文化財に指定されている45面の能面と狂言面が保存されています。また、能楽の音楽部分である謡や、能面を付けずに舞う仕舞などの会もあり、現在も発表会などを開き活発に活動しています。



子ども狂言

1995(平成7)年には、観阿弥が能楽の座を始めたことをもとに、上小波田の福田神社跡に観阿弥ふるさと公園と能舞台が整備されました。1991(平成3)年からは、地元の子どもたちによる「子ども狂言の会」が設立され、地域の行事や全国各地で公演を行ってきました。また、2007(平成19)年からは「こども能楽囃子教室」、さらに2018(平成30)年には「こども仕舞教室」も始まり、子どもたちも能楽や狂言を学んで、地域の伝統文化に親しんでいます。

獅子舞

お祭りやお正月に演じられる獅子舞も、古くから伝わる伝統芸能です。獅子舞は悪魔を払い、豊作やみんなの幸せを祈る舞です。名張の獅子舞は、江戸時代に伊賀市の敢国神社から伝わったとされていますが、各地区でそれぞれの舞があり、大切に受けつがれてきました。現在名張市では、獅子舞を受けつぐ保存会が約30団体ありますが、後をつぐ人が少なくなってきたという課題もあります。



- ・実際に行って、見たり聞いたりしてみましょう。
- ・伝統を守るためにしていることを調べてみましょう。

観阿弥【→P82】
名張藤堂家【→P44】